

最近増加傾向にあるイネ苗立枯細菌病には カスガマイシン粒剤の散布処理が有効

福島県農業総合センター生産環境部 作物保護科

1 部門名

水稻—水稻—病虫害防除

2 担当者

清田裕司

3 要旨

本県で水稻育苗時に苗立枯症状を引き起こす細菌病は、主にイネもみ枯細菌病とされてきたが、近年になってイネ苗立枯細菌病が増加してきている。その要因の1つに、本県で流通する消毒済み種子は、病徴が類似しているイネもみ枯細菌病に防除効果のあるヘルシードTフロアブルの種子吹付け処理種子であり、苗立枯症状を引き起こす、すべての細菌病が防除されていると思込み、イネ苗立枯細菌病に対して積極的な防除がされていないことがあげられる。

一方、イネ苗立枯細菌は、カスガマイシン粒剤処理が効果的(平成25年参考成果)であることを報告した。しかし、種子消毒剤処理後の追加処理で拮抗作用が生じるか否かについては確認されていない。

本試験では種子消毒後の追加散布処理でも防除効果が高いことを確認した。

- (1) カスガマイシン粒剤の散布処理は、本県で発生するイネ苗立枯細菌病において高い防除効果が得られる。また、種子消毒後の追加散布処理でも、拮抗作用もなくカスガマイシン粒剤単独での処理と同様に有効である(図1)。
- (2) 前年度の水稻育苗期間中に苗立枯症状が発生したなど、細菌病の可能性のある病害対策の参考とする。

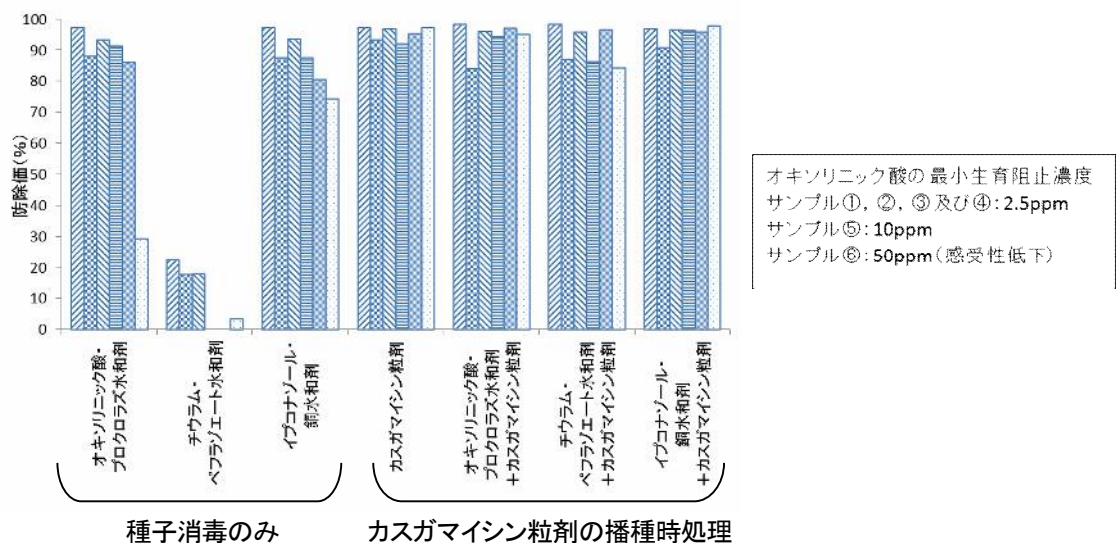


図1 各種薬剤の処理とカスガマイシン粒剤の播種時処理に加え
それらの組み合わせ処理の防除効果(防除価)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成27年度
- (2) 研究課題名 水稻・畑作物における病虫害の効率的防除技術開発
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

「イネ苗立枯細菌病に対するカスガマイシン粒剤処理はどの育苗用培土でも高い効果を示す」(平成25年度参考成果)